

1:25,000 活断層図

庄川断層帯とその周辺

「白山」解説書

中埜 貴元・後藤 秀昭
(国土地理院) (広島大学)

令和2年11月

下 梨

白川村

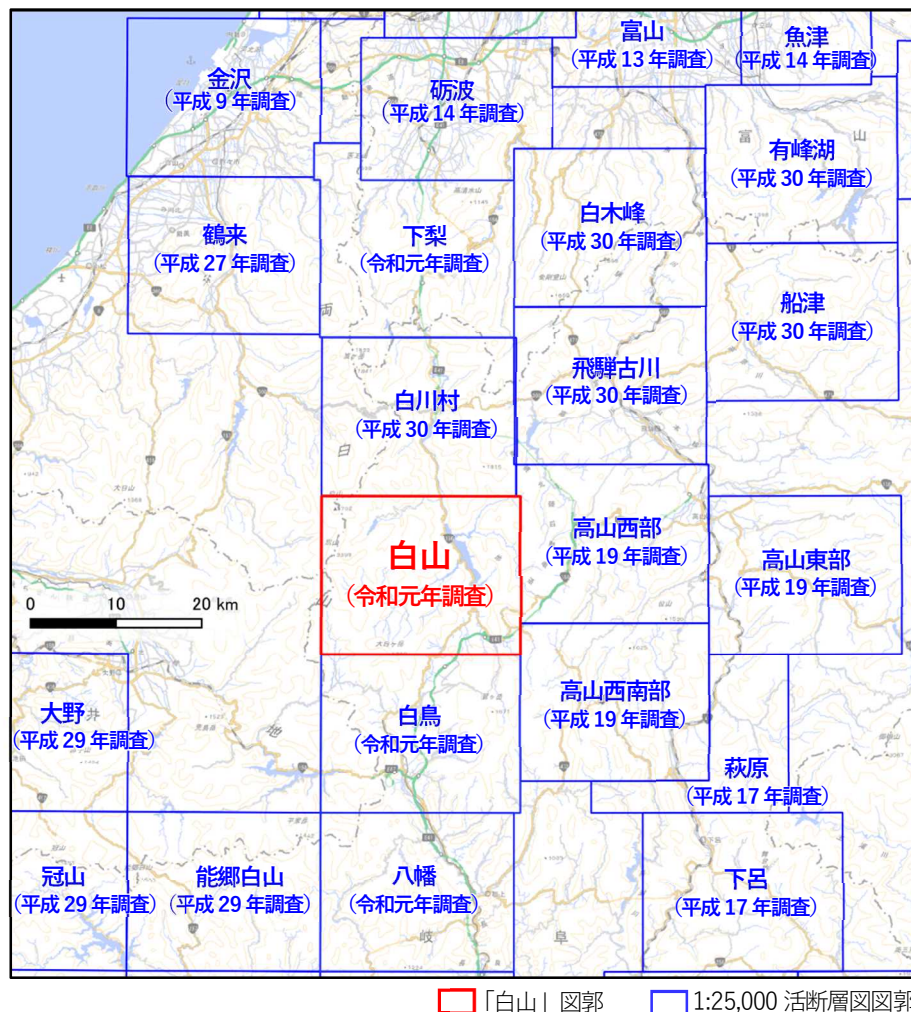
白 山

編集 国土地理院

目 次

1:25,000 活断層図 庄川断層帯とその周辺「白山」解説書

1. 白川断層 ^{しらかわ} ・	2
2. 三尾河断層 ^{みおご} ・	3
3. 夏厩断層 ^{なつまや} ・	4
4. 森茂川付近の断層 ^{もりもがわ} ・	5
5. ワサビ谷から落部川上流部に至る断層 ^{おちべがわ} ・	6
6. 牧谷から尾上郷川上流部サブ谷上流に至る断層 ^{まきたに おかみごうがわ} ・	6
7. 日照岳西方の断層 ^{ひでりだけ} ・	6
8. 尾上郷川流域南部の断層 ^{おかみごうがわ} ・	7
9. 御母衣湖南方の断層 ^{みぼろこ} ・	7
10. ひるがの高原付近の断層 ^{こうげん} ・	8
引用文献・	9
使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等・	10
付図（断層索引図）・	12



1:25,000 活断層図「白山」作成位置図

1:25,000 活断層図 庄川断層帯とその周辺「白山」解説書

庄川断層帯は、石川県金沢市東部から、富山県南砺市福光地域、同県同市上平地域、岐阜県大野郡白川村、同県高山市庄川町地域を経て、同県郡上市北部に至る断層帯で、加須良断層、白川断層、三尾河断層及び森茂断層から構成される。全体の長さは約 67 km で、ほぼ北北西－南南東に延びる。本断層帯は左横ずれを主体とし、加須良断層では東側隆起成分、白川断層と三尾河断層では西側隆起成分を伴う。加須良、白川、三尾河の各断層は概ね直線状に分布するが、加須良断層と白川断層の間には小規模のステップを有する。また、森茂断層は白川断層の東方に 2－5 km 程度の間隔をとって分布する（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2004）。

本図には、庄川断層帯を構成する白川断層及び三尾河断層、高山・大原断層帯のうち、国府断層帯を構成する夏廐断層と、高山市北西部の森茂川付近の断層及び主に御母衣湖西方から南方の山地内に分布するその他の推定活断層が記載されている。以下に、各断層の概要と判読した根拠を記載する（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応）。なお、本調査では空中写真のほか、航空レーザ測量データによる詳細 DEM（以下、「詳細 DEM」という）を判読に用いた。

1. 白川断層

- ・走向 : 北北西－南南東から北西－南東
 - ・長さ : 約 13 km
 - ・断層種別 : 活断層（左横ずれが主体、一部縦ずれを含む）
- （※上記の各諸元については、本図葉内における計測及び確認結果である）

（1）概要

白川断層は、本図の北側に隣接する 1:25,000 活断層図「白川村」（後藤ほか，2018）図葉のゾウゾウ山の北側の庄川左岸付近から、本図葉の御母衣湖南東部まで、ほぼ南北から北西－南東方向に延びる活断層である。御母衣湖の北方、庄川と大白川の合流部付近（図郭北端部）では、北側から伸びてきた断層が西側へステップし、御母衣湖の南東部では東側へステップしている。

本図には、大白川の合流点付近（図郭北端部）から御母衣湖南東部まで、北北西－南南東から北西－南東方向に延びる長さ約 13 km の区間が記載されている。左横ずれを主体とし、一部区間に縦ずれの変位がみられる。

（2）判読根拠

庄川及び御母衣湖に沿って活断層が分布することは、今泉ほか編（2018）、1:25,000 岐阜県活断層図（鈴木・杉戸編，2010）（以下、「岐阜県活断層図」という）、活断層研究会編（1991）などの既往研究から明らかであるが、本図区間の大部分は御母衣湖に埋没しており、判読資料が古い空中写真などに限られるうえ、明瞭で規模の大きな変位地形が分布しないことが判

読を難しくしてきた。しかし、本調査では御母衣湖の範囲外での判読に詳細 DEM を用いることで、微小な逆向き低崖や鞍部などの変位地形を確認でき、断層地形を詳しく記載することができた。

以下、大きく 3 つの区間にわけて判読根拠を示す。

- 1a, 1b： 図郭北端では、詳細 DEM の判読により、庄川の左岸、大白川の北側の東向き山地斜面内（付図中 1a 付近）に、相対的に東側隆起（西側落ち）の明瞭な逆向き低崖が確認でき、その南方延長（付図中 1b）では御母衣ダム付近まで河谷の左屈曲と東向き斜面に形成された複数の小規模な鞍部が断続的に認められる。これらを結ぶトレースを白川断層とした。井嶋ほか（1984）によると、御母衣ダム北西の牧谷入口付近で断層破碎帯が確認されており、本図の白川断層に対応する可能性がある。本図の北側の 1:25,000 活断層図「白川村」（後藤ほか，2018）図葉から伸びる白川断層は、庄川の沖積低地内に達するが、本図内においては変位地形が認められないため、庄川と大白川の合流部の南側までとした。なお、今泉ほか編（2018）や岐阜県活断層図では庄川の沖積低地内または庄川右岸の山地斜面内に活断層が記載されており、また、廣田・末富（1955）や廣田（1962）による御母衣ダム建設前の地質調査では庄川右岸に断層破碎帯が、さらに井嶋ほか（1984）でも御母衣ダム北東の三谷の入口付近で断層破碎帯が確認されているが、今回の判読では庄川右岸側には変位地形が認められなかったため、記載していない。
- 1c： 御母衣ダム以南の御母衣湖内は、御母衣ダム建設前の空中写真の判読により、複数の河谷の左屈曲と、中位段丘面の相対的に北東側隆起（南西側落ち）の縦ずれ変位（付図中 1c）が認められ、それらに沿って活断層が延びているものと考えられる。なお、今泉ほか編（2018）や岐阜県活断層図のトレースとは位置が異なる。
- 1d, 1e： 御母衣湖の南東部では、閉塞丘と鞍部が確認でき（付図中 1d）、それらを結ぶようにトレースしたが、そこから南東方向へは追跡することはできなかった。一方、そのすぐ東側（付図中 1e）では詳細 DEM の判読により、地すべり地形内や南西向き斜面内に逆向き低崖が直線状に点在し、地点 1e の南東部では南西向き斜面内に逆向き低崖を伴う明瞭なニアメントが確認できる。なお、今泉ほか編（2018）や岐阜県活断層図ではこの付近の白川断層は後述の三尾河断層に連続させているが、活断層研究会編（1991）では本図と類似したトレースとなっている。

2. 三尾河断層

- ・走向： 北北西－南南東
 - ・長さ： 約 10 km
 - ・断層種別： 活断層（左横ずれが主体、一部縦ずれを含む）
- （※上記の各諸元については、本図葉内における計測及び確認結果である）

（1）概要

本図には、御母衣湖南東部から岐阜県高山市^{しょうかわちやうてらかわど}庄川町寺河戸（図郭南東端）まで、北北西－南南東方向に延びる長さ約 10 km の区間が記載されている。本断層は、1:25,000 都市圏活

断層図「高山西南部」(堤ほか, 2008) 図葉に連続し, 郡上市水沢上付近に達する。

左横ずれを主体とし, 一部区間に縦ずれの変位が認められ, 図郭南東端の高山市莊川町三尾河付近から同市莊川町寺河戸付近にかけては, 主トレースの周辺に多数の短い活断層や推定活断層が並走または雁行状に配列している。

(2) 判読根拠

三尾河断層付近には北北西－南南東方向の直線状の谷が延びており, それに沿って多数の小河谷の左屈曲や部分的な縦ずれ変位など, 明瞭な変位地形が連続する。図郭南東端部では, 詳細 DEM の判読により, 多数の小河谷の左屈曲を伴う主トレースの他に, それと並走または雁行状に斜交する縦ずれ変位を伴う多数の短い明瞭なリニアメントを確認した。

主な地点ごとの判読根拠は, 次のとおりである。

- 2a: 小河谷の左屈曲が西向き斜面に多数認められる。トレースの位置は今泉ほか編 (2018) や岐阜県活断層図の位置とほぼ同様である。
- 2b: 峠部分に相対的に東側隆起 (西側落ち) の明瞭な縦ずれ変位が認められる。この縦ずれ変位は岐阜県活断層図でも描画されているが, 本図では詳細 DEM の判読により, その位置をより正確に記載した。
- 2c: 今泉ほか編 (2018) や岐阜県活断層図では北西－南東方向に延びる直線状の谷に沿って断層が描かれているが, 本図では詳細 DEM の判読により直線状の谷の東側斜面に小河谷の左屈曲及び逆向き低断層崖が連続して認められ, これらに沿って活断層を記載した。
- 2d, 2e, 2f: 多数の小河谷の左屈曲を伴う三尾河断層の主トレースの位置 (付図中 2d) は, 今泉ほか編 (2018) や岐阜県活断層図などの既往研究とほぼ同様であるが, 詳細 DEM の判読により 2 か所の左ステップを新たに確認した (付図中 2d の範囲内の□印の位置)。また, 詳細 DEM を用いた今回の調査により, 隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「高山西南部」(堤ほか, 2008) 図葉などの既往成果では記載されていない多数の短い活断層や推定活断層を, 主トレースの周辺 (付図中 2e, 2f) で新たに確認した。主トレースの西側 (付図中 2e) では, 主トレースと並走またはやや斜交するリニアメント及び小規模な地溝が認められた。これらのうち, 沖積扇状地等の新しい地形面を明らかに変位させているものを活断層, それ以外の変位地形が不明瞭なものを推定活断層とした。2e の範囲の北側から中央付近にかけて延びる 2 本の推定活断層及びその南部で近接して並走する活断層及び推定活断層 (付図中 2e の範囲内の破線枠内) はいずれも小規模な地溝状の地形をなしており, 大局的に見れば一体的な構造であり, 少なくとも地溝の西縁を成す推定活断層は北から南までつながる可能性もある。主トレースの東側 (付図中 2f) では, 主に相対的に西側隆起 (東側落ち) の縦ずれ変位を伴う「ミ」の字型に雁行配列した明瞭なリニアメントを活断層とした。

3. 夏廐断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 4 km

- ・断層種別 : 活断層（右横ずれが主体，一部縦ずれを含む），一部推定活断層
（※上記の各諸元については，本図葉内における計測及び確認結果である）

（１）概要

夏厩断層は，岐阜県北部の高山市及びその周辺に分布する高山・大原断層帯のうち，主に高山市国府町地域から高山市荘川町地域にかけて長さ約 27 km，幅約 4－5 km でほぼ北東－南西方向に延びる国府断層帯を構成する断層であり（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2003），本図には高山市の六厩川右岸（図郭東端部）から荘川高原スキー場の東方まで，北東－南西方向に延びる長さ約 4 km の区間が記載されている．断層中央部では右横ずれの変位が見られ，断層南西端部では相対的に北西側隆起（南東側落ち）の縦ずれの変位を伴うとともに，その南東側に長さ約 1 km の推定活断層が並走している．本断層は，1:25,000 都市圏活断層図「高山西部」（八木ほか，2008）図葉及び 1:25,000 活断層図「飛騨古川」（熊原ほか，2019）図葉に連続し，高山市国府町名張付近に達する．

（２）判読根拠

本図内における断層の北東端部（六厩川右岸）では，詳細 DEM の判読により山地斜面内に逆向き低崖を伴う明瞭なリニアメントが確認できた．なお，隣接する 1:25,000 都市圏活断層図「高山西部」（八木ほか，2008）図葉のうち本図との重複部分では，この部分は活断層（位置やや不明確）となっていたが，本図内では明瞭な変位地形が確認できたため，活断層とした．断層中央部では河谷の右屈曲が認められるとともに，左にステップしている．なお，岐阜県活断層図ではこの活断層は本図の活断層よりも若干東寄り，左ステップの南側付近までの記載となっている．断層南西端部では，北西向き斜面内に相対的に北西側隆起（南東側落ち）の明瞭な縦ずれ変位（逆向き低崖）が詳細 DEM の判読で確認できる．その南東側にも明瞭なリニアメントが並走しているが，重力変形地形の可能性もあることから，推定活断層とした．なお，岐阜県活断層図でもこの部分を推定活断層としている．

4. 森茂川付近の断層

- ・走向 : 東北東－西南西
- ・長さ : 約 4 km
- ・断層種別 : 活断層（右横ずれを含む），推定活断層

（１）概要

岐阜県高山市の森茂川に沿って，図郭北東端付近から伊丸谷付近まで，東北東－西南西方向に延びる長さ約 4 km の活断層（一部推定活断層）である．森茂川を挟んで南側（左岸側）は右横ずれの変位を伴う活断層で，北側（右岸側）は推定活断層となっている．地震調査研究推進本部による主要活断層帯の長期評価の対象とはなっていない（地震調査研究推進本部 HP（2020 年 2 月 28 日閲覧）による）．

（２）判読根拠

森茂川の南側（左岸側）では，北向き斜面内に小河谷の右屈曲と明瞭な鞍部が断続的に分

布することから、活断層と判断した。森茂川の北側（右岸側）では、南東向き斜面内に鞍部が断続的に分布するものの、変位地形の明瞭さと連続性に欠けるため、推定活断層とした。これらの断層は今泉ほか編（2018）や活断層研究会編（1991）で示された戸市川断層（前者では活断層、後者では確実度Ⅱの活断層）の南西延長に位置し、一連の断層の可能性はある。

その他、本図には以下の推定活断層が記載されている。

5. ワサビ谷から^{おちべがわ}落部川上流部に至る断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 4 km
- ・断層種別 : 推定活断層

（※上記の各諸元については、本図葉内における計測及び確認結果である）

（1）概要

岐阜県高山市と白川村にまたがる御母衣湖の東方に位置し、高山市のワサビ谷（図郭東端）から落部川上流部付近まで、北東－南西方向に延びる長さ約 4 km の推定活断層である。

（2）判読根拠

直線状の谷が連続するとともに、断層の南西端部では河谷の右屈曲が認められるが、連続性を欠くため、推定活断層とした。この推定活断層は途中で分岐するが、分岐した短い断層部分では詳細 DEM の判読によりリニアメントが確認できる。なお、今泉ほか編（2018）、岐阜県活断層図及び活断層研究会編（1991）ではいずれも記載されていない。

6. ^{まきち}牧谷から^{おかみごうがわ}尾上郷川上流部サブ谷上流に至る断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 10 km
- ・断層種別 : 推定活断層

（1）概要

岐阜県白川村の牧谷付近から高山市の尾上郷川上流部サブ谷の上流付近まで、北東－南西方向に断続的に延びる長さ約 10 km の推定活断層である。

（2）判読根拠

河谷の右屈曲や鞍部が断続的にみられるが、連続性を欠くため、推定活断層とした。なお、今泉ほか編（2018）、岐阜県活断層図及び活断層研究会編（1991）ではいずれも記載されていない。

7. ^{ひでりだけ}日照岳西方の断層

- ・走向 : 北東－南西

- ・長さ : 約 4 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

国道 156 号線の福島保木トンネルの西方にある白川村の福島谷^{ふくしまたに}から、白川村と高山市の境界に位置する日照岳の西側を経て高山市のカラス谷付近まで、北東－南西方向に延びる長さ約 4 km の推定活断層である。福島谷の中流部付近から南西側は断層が 2 条に分岐し、南側の分岐断層は白川村と高山市の境界付近でさらに 2 条に分岐している。

(2) 判読根拠

小河谷の右屈曲や鞍部が連続するが、河谷の屈曲部間に明瞭な変位地形が認められないこと、地形面自体が古い可能性があることから、推定活断層とした。その一部は岐阜県活断層図においても推定活断層として記載されている。なお、井嶋ほか (1984) によると、本推定活断層の北東側に位置する福島谷の入口付近 (付図中 7 の範囲内の□印の位置) で幅 50 m にわたる断層破碎帯 (N65° E, 60° N) が確認されており、本推定活断層はもう少し北東に延びる可能性もある。

8. 尾上郷川^{おかみごうがわ}流域南部の断層

- ・走向 : 北東－南西～東北東－西南西
- ・長さ : 約 11 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

岐阜県高山市と白川村に位置する御母衣湖の西岸に注ぐ尾上郷川の流域南部に、北東－南西から東北東－西南西方向に延びる 6 条の推定活断層で構成される断層である。

(2) 判読根拠

全体的に小河谷の右屈曲及び鞍部が断続的に分布し、一部には詳細 DEM の判読により明瞭なりニアメントが認められるが、連続性を欠くため、推定活断層と判断した。6 条の推定活断層のうち、大黒谷^{おおくろだに}及び大黒谷ダムを通り、アマゴ谷付近に至る推定活断層は、活断層研究会編 (1991) において確実度Ⅲの活断層として記載されているが、その他の推定活断層は今泉ほか編 (2018)、岐阜県活断層図を含めていずれも記載されていない。

9. 御母衣湖^{みぼろこ}南方の断層

- ・走向 : ほぼ南北
- ・長さ : 約 3 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

岐阜県高山市^{しょうかわちやういわけ} 庄川町岩瀬から同市庄川町中畑まで、ほぼ南北方向に延びる長さ約 3 km

の2条の推定活断層である。

(2) 判読根拠

本地域には、泥流堆積面（棚瀬ほか，2007）が広がり、それを数段にわける比高 30～40 m の崖が分布する。また、泥流堆積面の一部において、堆積面の西端部が南北方向の長軸をもつ蒲鉾状を呈する地形もみられる。この比高 30～40 m の崖と泥流堆積面上に断続的に分布する蒲鉾状の地形は変動地形の可能性があるが、段丘崖や組織地形の可能性もあるため、推定活断層とした。なお、今泉ほか編（2018）、岐阜県活断層図及び活断層研究会編（1991）ではいずれも記載されていない。

10. ひるがの^{こうげん}高原付近の断層

- ・走向 : 北北東－南南西
- ・長さ : 約 3 km
- ・断層種別 : 推定活断層

（※上記の各諸元については、本図葉内における計測及び確認結果である）

(1) 概要

岐阜県高山市の莊川ゴルフ場付近から 1:25,000 活断層図「白鳥」（熊原ほか，2020）図葉の同市^{ひるがの}蛭ヶ野付近まで、北東－南西方向に延びる推定活断層である。

本図には、莊川ゴルフ場付近から郡上市蛭ヶ野（図郭南端）付近まで、北北東－南南西方向に並走する長さ約 3 km の3条の推定活断層が記載されている。

(2) 判読根拠

莊川ゴルフ場付近からひるがの高原スキー場にかけては、概ね北北東－南南西方向の軸をもつ蒲鉾状の丘陵地形が延びている。この丘陵は西側斜面よりも東側斜面の方が急傾斜な非対称の地形をなす。これを横断して北西流する河川の上流部は風隙地形をなし、南東流する河川によって争奪された地形と考えられる。また、丘陵の西側斜面には丘陵頂部を取り囲むように小段が観察され、北西流する河川が丘陵の隆起に伴って側刻した痕跡と考えられる。以上の地形的特徴から、この丘陵は背斜の成長に伴う隆起によって形成されたことが示唆され、波長や非対称な変形から考えて、東側斜面基部に分布する活断層を主体とする変形の可能性はある。

東側斜面基部においては、不明瞭ではあるものの、沖積扇状地面上に撓みが見られる。一方、西側斜面には斜面基部で撓曲状の急傾斜帯や鞍部が断続的に分布するほか、その南西延長の郡上市^{ひるがの}蛭ヶ野付近（1:25,000 活断層図「白鳥」（熊原ほか，2020）図葉内）では、上位段丘面が北西側に低下する撓曲状の地形が確認できる。これらの地形は、丘陵の隆起に関連した活断層の存在を示唆するが、連続性に欠くことと、当該地域を構成する火砕流堆積物（あるいは火山麓扇状地堆積物、泥流堆積物）や溶岩（坂田ほか，1992；棚瀬ほか，2007）の給源と考えられる烏帽子・鷲ヶ岳火山や大日ヶ岳の活動時期が 120～100 万年前前後（東野ほか，1984；棚瀬ほか，2007）とされており、地形面形成時期が前期更新世の可能性もあることから、推定活断層とした。なお、今泉ほか編（2018）、岐阜県活断層図及び活断層研究会編

(1991) ではないずれも記載されていない。

(国土地理院地理地殻活動研究センター主任研究官 中埜 貴元)
(広島大学准教授 後藤 秀昭)

引用文献

- 後藤秀昭・岡田篤正・熊原康博・堤 浩之・山中崇希 (2019) : 1:25,000 活断層図「白川村」, 国土地理院.
- 東野外志男・長尾敬介・板谷徹丸・坂田章吉・山崎正男 (1984) : 白山火山及び大日ヶ岳火山の K-Ar 年代. 石川県白山自然保護センター研究報告, 10, 23-29.
- 廣田孝一 (1962) : ダムの岩盤基礎. 土木学会夏期講習会テキスト ; 昭和 37 年度「最近の基礎工法」, 土木学会, 199-234.
- 廣田孝一・末富 宏 (1955) : 御母衣ダムサイトの地質調査. 電源開発株式会社調査資料, 10, 1-20.
- 井嶋伸治・溝口秀勝・粕野義夫 (1984) : 岐阜県白川谷の断層と保木脇の崩壊堆積物. 石川県白山自然保護センター研究報告, 11, 1-18.
- 今泉俊文・宮内崇裕・堤 浩之・中田 高編 (2018) : 「活断層詳細デジタルマップ [新編]」. 東京大学出版会, 154p+USB メモリ.
- 地震調査研究推進本部 : 主要活断層帯の長期評価.
https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/major_active_fault/ (2020 年 2 月 28 日閲覧)
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 (2003) : 高山・大原断層帯の長期評価. 26p.
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/48_takayama_oppara.pdf (2020 年 2 月 28 日閲覧)
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 (2004) : 庄川断層帯の長期評価. 23p.
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/50_shogawa.pdf (2020 年 2 月 28 日閲覧)
- 活断層研究会編 (1991) : 「新編日本の活断層—分布図と資料—」. 東京大学出版会, 437p.
- 熊原康博・岡田篤正・後藤秀昭・堤 浩之・松多信尚 (2019) : 1:25,000 活断層図「飛騨古川」, 国土地理院.
- 熊原康博・石村大輔・金田平太郎・小山拓志 (2020) : 1:25,000 活断層図「白鳥」, 国土地理院.
- 坂田章吉・東野外志男・山崎正男 (1992) : 大日ヶ岳火山の地質と岩石. 石川県白山自然保護センター研究報告, 19, 1-20.
- 鈴木康弘・杉戸信彦編 (2010) : 「1:25,000 岐阜県活断層図」. 岐阜県, 138p.
- 棚瀬充史・及川輝樹・二ノ宮 淳・林 信太郎・梅田浩司 (2007) : K-Ar 年代測定に基づく両白山地の鮮新—更新世火山活動の時空分布. 火山, 52, 36-61.
- 堤 浩之・岡田篤正・後藤秀昭・澤 祥・杉戸信彦・東郷正美・宮内崇裕 (2008) : 1:25,000

都市圏活断層図「高山西南部」，国土地理院。
 八木浩司・東郷正美・今泉俊文・堤 浩之・熊原康博・宮内崇裕・鈴木康弘（2008）：
 1:25,000 都市圏活断層図「高山西部」，国土地理院。

使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等

1) 使用空中写真

撮影計画機関（種別）	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍（モノクロ）	1/40,000	M626B, M1216N
国土地理院（カラー）	1/10,000	CCB-77-7
林野庁（モノクロ）	1/20,000	山-232, 山-375

2) 使用航空レーザ測量データ

国土地理院が管理する航空レーザ測量データから 1mDEM 及び 2mDEM を作成して使用

3) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会の開催

第 1 回委員会 令和元年 8 月 29 日（木）新槇町ビル 7 F ビジョンセンター東京駅前
 地域部会 令和元年 10 月 8 日（火）新槇町ビル 7 F ビジョンセンター東京駅前
 第 2 回委員会 令和元年 12 月 26 日（木）新槇町ビル 7 F ビジョンセンター東京駅前

b. 庄川断層帯とその周辺「白山」の作成委員（令和元年度）

図 名	氏 名	所 属
白山	○ 中埜 貴元	国土地理院地理地殻活動研究センター研究官（現在：主任研究官）
	石村 大輔	首都大学東京（現在：東京都立大学）助教
	後藤 秀昭	広島大学准教授
	山中 崇希	国土地理院応用地理部地理情報処理課技官

○印は，全体のとりまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順

4) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課
 〒305-0811 茨城県つくば市北郷 1 番
 電話：029（864）1111（代表）

5) 引用する場合の記載例

a. 図を引用する場合

中埜貴元・石村大輔・後藤秀昭・山中崇希（2020）：1:25,000活断層図「白山」，国土地

理院.

b. 解説書を引用する場合

中埜貴元・後藤秀昭(2020): 1:25,000活断層図 庄川断層帯とその周辺「白山」解説書,
国土地理院, 12p.

